

## 第2回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：平成29年7月3日 13時00分～14時50分

場所：北秋田市役所本庁舎 大会議室（3F）

### 【会議の概要】

#### 1. 座長挨拶

#### 2. 協議事項

##### （1）前回会議の指摘事項に対する回答について

###### 受動喫煙防止について市の対策は

健康福祉部長（代理：福祉課長）市では、母子手帳交付時に喫煙の状況について確認しており、危険性を伝えている。また、禁煙外来のPRチラシの配布もしており、強制ではないが一人ひとりに認識してもらえるよう啓発に取り組んでいきたい。

小塚委員（説明の件は）保健センターで以前から実施していること。それでも進んでいない状況である。保育園や小中学校、市役所内などそれぞれの担当部署での啓発活動が進んでいるかどうかということ。チラシの配布等では手ぬるいのもう一步踏み込んでほしい。

福祉課長）平成28年6月から受動喫煙防止施設の募集が始まっているが、市内では現在2施設のみの登録である。まだまだ周知不足であるので頑張りたい。

小塚委員）全員に喫煙を止めろというわけではないが、乳幼児やこれから出産する人などにぜひ伝えていってほしい。

###### 市民歌を防災無線やチャイムで流せないか

総務部長）防災行政無線については、各地区単独での運用であり一律な対応が出来ない状況である。ただし、市が現在進めているデジタル無線システムの構築により、各家庭に受信用ラジオが設置されることになるので、ぜひ取り組んでいきたい。

また、市役所への電話の保留音が聴きにくいことについては、受話器のスピーカーの音量の大小もあると思うが、近々市民歌のオルゴールバージョンを流す予定なので、その反応を見ていく予定である。

防災メールを使って防災情報以外の市の情報を流すことについては、現時点では対応できない状況である。デジタル無線システムの構築に力を入れていきたい。

##### （2）北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シートについて

座長から評価基準について提案され、検証会議での採点結果が36点以上ならA、27から35点ならB、23から26点ならC、22点以下ならDという内容とした。

### 「伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録に向けた I S E D O T A I ブランド創造事業」

- ・担当課による自己評価に対する質疑は無し。
- ・採点結果は 39 点で A 評価とする。

### 「地域連携 DMO 形成事業」

大穂委員) 秋田犬ツーリズムによる PR 動画は、はじめはどうなるかと思っていたがインパクトがあった。台湾のブロガーもとても喜んでいたので大きな反響があった。これらをタイやマレーシア、中国本土などのほかの国にも広げられたら良い。

小塚委員) 自己評価の課題にあった「盛り上がりには偏りがある」とはどういうことか？

産業部長) 構成市町村同士では同じ方向性であるが、受け入れ態勢についてそれぞれの考え方に偏りがあるということ。

- ・採点結果は 39 点で A 評価とする。

### 「地域産品磨き上げ事業」

大穂委員) 枝豆について、全国には茶豆やだだちゃ豆、ずんだなどのブランドが各地にあるが、秋田の枝豆は量だけで日本一を目指している感がある。ネーミングをするなどトータルの工夫が必要と思うがどうか。

産業部長) 秋田の枝豆は日本一の生産量である。県では品種改良も進めておりそれなりの評価を得ているので、市としても県と協力して進めていきたい。

座長) シート中に「枝豆自体の市場の評価が芳しくない」とあるがどういうことか。

産業部長) 秋田では長い期間栽培しているし、経験不足の方もいるので、品質に対して人によって評価に差があるということ。

小塚委員) 今後の取り組みとして「新たな商品・加工品開発を進める」とあるが、枝豆に特化したものか。

産業部長) そうです。

小塚委員) 今の若い人は貧血や低血圧という人が多い。小豆がすごく良い。いい土といい酸素があればできる作物なので、枝豆ではなく小豆についてもぜひ検討してほしい。

奥田委員) 今、豆がすごい人気。枝豆の加工品を食べたことがあるが全く買おうと思わない。下手に今流に加工するより純粋に健康食品として目指していけばよい。加工品でも健康を主にしたものにすれば東京でもはやると思う。

- ・採点結果は 32 点で B 評価とする。

### (3) 北秋田市総合戦略検証会議による意見・提言について

福原委員) 伊勢堂岱遺跡の展示品について、もう少し工夫した形にすればいい。何が世界遺産かをアピールしてくれれば良い。

教育次長) そのとおり。展示品への説明は今のままではリピーターの獲得は難しい。展示品の入れ替えに加え、特別展の開催について内部で検討しているところである。

ワーキンググループの意見も聞きながら、分かりやすい説明にしたい。

世界遺産への登録については、専門機関からも指摘を受けているが難しくて分からないのが正直なところ。どういうところが世界遺産なのか、この遺跡がどういう価値があるのかをもっと分かりやすく市内外、国内外への発信をする必要があるのでPRの質を検討していきたい。

座長) 国のほうからそれぞれの遺跡の結びつきについて指摘があったかと思うが、遺跡同士の関連性は縄文館ではどのように展示しているか。

教育次長) 縄文館だけでは、中々分からない。ここは、あくまで伊勢堂岱遺跡に特化したものになっているので、世界遺産ということになればもっと分かりやすい説明が必要になってくる。

大穂委員) 現在クマの発生で見学が中止になっているが、中止が長引けば忘れられてしまう。クマ撃退用のスプレーがとても威力があるが何かそのような工夫をしてもらえればと思う。できたら早めに再開してもらうために何か手立てをしてほしい。

教育次長) 檻の設置をお願いしたところであるし、爆音機をもう一つ追加する。この様子を見て何も無ければ再開したいと考えている。現在見学は出来ない状況であるが、実際には団体の予約があるのでガイドを増やしたりコースを限定して対応している。

奥田委員) 北秋田市は自然が財産なので、クマだクマだと言っていられない。伊勢堂岱遺跡のファンクラブを作って、興味のある人にネットなどでいろんな情報を提供しこの遺跡を育ててもらうのはどうか。見学できないときでもネットを通じていろいろ参加できる形。

例えば、ロゴマークを作ってくれた方などにいい提案をもらうなどみんなで作り上げていくのはどうか。ファンクラブに入った人に実際に来てもらい知恵をもらうなど情報交換をするなど巻き込んでいかないと発展していかない。クマ対策としてはクラッカーでもよいのではないか。

座長) マタギに守ってもらうのもいいと考えた。実際にマタギも見られるので。

県立美術館などではボランティアがいて、その方々が割り当てを決めて自分たちの活動としてやってくれているので、そういう手法もとても有効であると思う。

花田委員) 大湯ストーンサークルの来場者数が多いとのことだが、比較はしたことがあるのか。その数値を参考までに教えてほしい。

教育次長) データは後で示したい。縄文まつりについては、毎年同じだとあきられるので、趣向を凝らしたいと考えている。例えば、犬は縄文時代からいたらしく、そのDNAを受け継いだのが秋田犬とのこと。そういうのも含めて秋田犬ツーリズムと連携してできないか

検討しているところ。

奥田委員) 何をやるにしても高校生を巻き込んでほしい、絶対縄文に興味のある人はいると思うし、ふるさとに関わった思い出があれば将来のUターンにもつながるはず。JRCなどのボランティアサークルなどに声かけをして、一緒に作り上げてほしい。

福原委員) 事業者の継承について。経営状態はいいのに後継者がいなくて廃業となるケースが多いとのこと。市ではこのようなケースはあるのか、また今後ありえるのか。

産業部長) そのような結果としてシャッター通りとなっている現状である。従業員が数人いるところであれば後継者がいると思うが、個人事業主の場合はありえると思う。

福原委員) 従業員が一人二人ではなく、10人や20人それ以上いるところで廃業となればその人数が失業してしまうことになると思うがその影響はどうか。

産業部長) 経営難による倒産はあると思うが、10人20人の規模のところでは後継者不足による廃業はありえないと思われる。

大穂委員) 前回会議で発言した公務員ハンターについて、そういう枠での採用をした方が良いと思うがどうか。くまぐま園の園長は公務員でありマタギであり獣医であるがそろそろ後継者を育てる必要がある。クマの研究している学生は百人単位でいる。その方が専門を活かせる職場が中々無い。ずっとくまぐま園にいるわけではなく市の仕事も覚えてもらいながら、マタギの勉強もしてもらおうなど、計画的に育てていかないとこれから先非常に厳しくなると思う。このような採用は全国的にも少ないので話題性にもなり移住にもつながると思う。そのような積極的方策を考えていただきたい。

#### 【5分休憩】

教育次長) 先ほどの大湯ストーンサークルの来場者数について報告する。県の観光統計によると、平成26年は19,489人、平成27年は18,475人となり、当方の縄文館と比べると来場者数は多いということになる。

#### 【建設部長：効果検証シートの追加資料について説明】

福原委員) 上水と簡水について、水質などが違うものなのか？

業務係長) 水質などには違いは無い。事業規模ごとに法の規制があり、一定規模の事業について公営企業会計制度を基にして経営することができるとなっているもの。

小塚委員) 少子高齢化と高齢福祉と障がい福祉について、効果検証シートの記述において、今後の方向性、特に子育てについてはそれが読み取れない。企業に対する子育て制度の支援や意識の醸成、さらには出産後の母子の孤立防止や産前産後のケアポート体制が足りないと考えているが、こういうことを含めた市としての方向性が考えられているのか。

要介護認定を受けていない高齢者の割合という目標についての評価検証の文言の深みが

足りない感じがする。これだと分からない。

障がい福祉における評価検証「今後も必要な入所を推進したい」という文言は、制度的にも地域で自立した生活ができるよう目指しているなど、施設のあり方が検討されている中でこのような文言を使うのはどのような意味があるのか。

何年来の懸案事項である「ストマの方々 wash できる場所がない」という点についても、文言に入っていないので弱い感じがした。市でもいろいろ考えられているとは思いますがどのようにお考えか教えていただきたい。

福祉課長) 少子化対策の今後の方向性については支援団体の協力関係の構築を始めているところ。企業への助成は検討に入りたいと思っている。

産前産後の自殺が多いことについては語り場が少ないというデータ結果がある。市内には窓口はあるが、中々知られていないので周知を図っているのが現段階である。

「78 要介護・要支援認定を受けていない後期高齢者（75 歳以上）の割合」について、健康だからを受けていないという解釈ではない。受けた方がよいのにを受けていないということがこの割合として考えられる。（認定を受けてほしいが家に入ってほしくないなど）いろいろなごり押しできない事情がある。表現が分かりにくくて申し訳ない。今後の課題としたい。

「82 福祉施設入所者数」については、自立も進めており、少し手助けをすることで自分の家で生活できる場合は施設入所を勧めていくというわけではない。どうしても適わない方に関しては施設入所を勧めていくということであるのでご理解いただきたい。

「84 就労移行支援事業の利用者数」について、今まではあまり就労という視点が少なかったが、総合支援法に変わっていく段階で、障がい者がこつこつやれる仕事があるのではないかとこの視点ともう少し伸びるのではないかとこの視点、さらには一般就労という視点で取り組んでいる。実績値がどんどん上がっていくものではないが、進めているんだということをご理解いただきたい。

「85 公共施設バリアフリー率」については、県で毎年調査を行っているもの。施設の統廃合を検討しているものを含まれているのでそれらに予算をつけるのかという検討もされている中で数字が伸び悩んでいるということがある。また、人工肛門についてはこの項目には無いことから、お話として承りたいと思う。

座長) 積極的な文言にはならないのか？

福祉課長) 建物の統廃合の方向性が決まらないう伸びていかないものと思われる。

建物の特性も考えられるが、各施設とも 3、4 つの項目はクリアするが、6 つの項目となるとなかなか難しい。ストマに関してはこの調査 6 項目以外のその他の項目になる。市独自の調査はしようと思えばできるが、聞き及ぶに現時点ではないと聞いている。

座長・小塚委員) このような設備は市民の暮らしの他に観光など全般に関係してくることになるので包括的に考えてもらいたい。

福森委員) 防災行政無線について、各家庭にあると思うが企業には付いていない現状である。お金を払っても付けたいところもあるが、空き家などから受信機を回すという方法が無い

ものか。

観光施設の wi-fi 設置について、維持管理やセキュリティ面は所有者がやると思うが、その点についての市の考え方は。安全面のことを考えるとそのまま推し進めるのはどうか。

リピーターが来ない施設は縄文館以外にもいくつもあるので、その施設の展示換えなども検討してほしい。

総務部長) 戸別受信機があるのは阿仁と森吉の一部のみ。それ以外はコンクリート柱にスピーカーを設置している方式である。阿仁の受信機については、希望がある旨をセンターと進めていきたい。

教育次長) 縄文館に関しての wi-fi ということでお答えする。外部システムをダウンロードできる wi-fi 環境になり、ウイルスの可能性が無いわけではないが、対策が難しいところがある。できるだけ他に影響が無いような対策をしたいと考えている。

産業部長) 維持管理については施設管理者がやることであり、市としてセキュリティには関係していない。

教育次長) 教育委員会所管の施設について、浜辺の歌音楽館があるが、オープン当初の目玉であるピアノのロボットについては修理が不可能とのこと。新しい教育長から別の方法で人を呼ぶことを検討するよう提案があった。今後教育委員会全体で検討していくこととなる。どのようにしてマンネリ化した施設にリピーターを呼ぶのかは難しいところであるが、何もしないとただ老朽化していくだけなので、各施設の外部有識者の知恵も借りながら対策を打っていききたいと考えている。

佐藤オブザーバー) 伊勢堂岱遺跡について、途中の坂道が急なので手すりなどを付けていただければと思う。イベントへの補助金について、補助金を出してどうだったか、地域にどのくらいの還元があったのかなど検証をしていただきたい。どのイベントにどれくらいの補助金を出しているのかが分かれば、これからやりたいという方にもいいと思う。

永井委員) 市民意識調査報告書の中で、別の場所に住みたいと答えた市民の選んだ理由として買い物が不便という項目が多いことが気になった。また、検証シート「18 小売業事業所数」という目標値の設定が少し低いのではないかと。目標の見直しが必要と思う。

照井委員) 「25 資格取得支援助成金活用による資格取得者数」について、利用者増となっておりいい傾向だと思うが、引き続き今後も継続されるかを確認したい。また、予算を上限とするのか、制限無くできるものなのか確認したい。

産業部長) できる限りはしたいと考えている。

大穂委員) 包括ケアシステムをどのように作るかの座談会が大阿仁地区で行われた。大阿仁地区 800 人くらいの人口、鷹巣の街中だとどのような計画になっているのか。

福祉課長) 情報があまり無いが、区割りの考え方がいろいろあり、鷹巣地区はどの区割りが良いか決まっていない。中学校区小学校区自治会単位など、これからの課題である。

以上